

## 「賀古駅家、発掘ものがたり」 15 <謎を解く>



<瓦と共に見つかった炭>

では、大量に出土した瓦は何を示すのか。その謎を解く条件を列挙します。

- ①およそ直径3 m程度のくぼみの中から出土
- ②正門付近の近くから出土
- ③いずれも出土した瓦は小さな破片で、全体の様子がわかるものはほとんどない。
- ④白い土がいっしょに見つかった。
- ⑤土器の破片もいっしょに見つかった。
- ⑥鉄製品をつくったとき（精錬・鍛冶）に出る鉄滓（てっさい）やふいごの羽口（はぐち：送風管）も一緒に見つかった。
- ⑦瓦や土器の年代からこれらの瓦は奈良時代に捨てられたと考えられる。
- ⑧築地塀に沿って巡る溝が途切れた場所の近くで見つかった。

謎解きの条件は整いました。それでは、私の推理をご披露することにしましょう。

まず、瓦が小さな破片であったこと。この点から瓦が屋根から自然に落下し、くぼみに溜まったのではなく、別のところで壊れたものが運ばれ、ごちゃごちゃに混ざった後に捨てられた、ということがわかります。

この捨てられた時期が問題となります。瓦と一緒に見つかった土器を見ると奈良時代の特徴をもっているのです。どうやら瓦は奈良時代に捨てられたようです。つまり、駅家が衰退、荒廃し、屋根から落ちて散乱する瓦を、穴を掘って捨てたというのではなく、瓦葺きの駅家ができた頃に捨てられたものだったとわかります。

つぎに、一緒に見つかったものを見てみましょう。他の出土品には鉄滓や鞆（ふいご）の羽口（送風管のこと）があり、付近で精錬鍛冶が行われたことがわかります。これらは駅家が完成し、門の前で作業が行われたと考えるよりは、駅家を築造する際に行われた

と考える方が自然でしょう。つまり、大量の瓦は、一緒に出土した土器、白土、精錬鍛冶関係品と共に、駅家を築造するときに出たゴミを捨てたもの、という結論に達しました。

なお、特筆すべきものに、目を見張るような白い土があります。遺跡を覆う土はほとんどが黄褐色～茶褐色系の土でしたが、ここからは他の地点では見ることがなかった白い土が見つかりました。「これは何だ？」いくら眺めても答えは出ず、持ち帰って科学の力で分析することにしました。

兵庫県立考古博物館 学芸員 中村 弘